

2001年2月、宝島でのカバマダラの越冬に関する調査

廣 森 敏 昭

Research on passing winter of *Anosia Chrysippus* in Takarajima Island in February 2001

Toshiaki HIROMORI

はじめに

カバマダラの分布の定着北限は図鑑等によると、奄美大島になっている。しかし、1997年頃から1999年にかけて鹿児島・宮崎県をはじめとする九州・四国の各地で夏から秋にかけて一時的な発生が見られた。これらの原因はまだはっきりしていないが、最近の温暖化現象や食餌植物（トウワタやフウセントウワタ）の分布拡大などもその要因の1つとして考えられるであろう。

筆者は、トカラ列島の宝島で2001年2月にカバマダラの越冬調査を実施したので、その結果と宝島での定着について報告する。

1 宝島のカバマダラに関する環境状況

寄生バチやハエなど天敵の問題の他に、カバマダラの定着を可能にするかどうかの大きな要因は、気温と食餌植物であろう。

宝島の冬季の最低気温や平均気温等はデータがなくはっきりしていない。しかし、県本土南部で最低気温1℃でもカバマダラの幼虫が生存して羽化した事例もあることから、緯度的に南に位置する宝島の冬季最低気温は、カバマダラの幼虫が生命を維持するのに十分耐えうる、また活動できうる温度であろうと推察される。

食餌植物の面では、島のあちこちにトウワタの自生が見られることである。特に、島の南東部にある大池周辺にはトウワタの数百本の群落があり、相当数のカバマダラの発生を維持できる環境である。

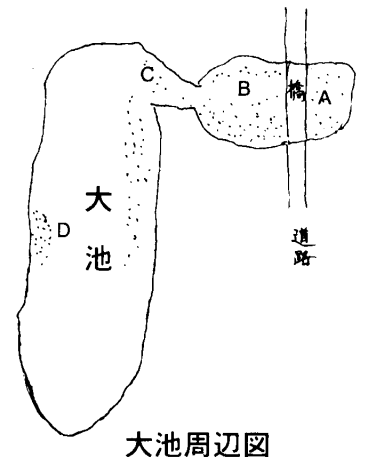
2 2001年2月のカバマダラ調査状況

24日(土) 午後2時～4時

宝島小中学校近くの空き地に生えているトウワタ約20本を調べるが、全く確認できない。その後、大池近くの群落に行き、B付近の一部約100本を調査するが確認できない。

25日(日) 午前9時～12時

大池周辺のトウワタ群落を調査。10:30道路より上のトウワタ群落Aで新鮮な食痕があり、葉の裏にカバマダラの3齢幼虫1匹（長さ約1.5cm）発見（写真1）。B付近では何も見つからない。11:30大池への入り口付近（C地点）の高さ約50cmのトウワタで、つぼみを食べている終齢幼虫（長さ約4.5cm）発見（写真2）。D付近の群落では、何も見つからない。



大池周辺図

25日(月)午後4時

アサギマダラのマーキング調査後、大池に立ち寄り再度調査する。最もトウワタの数が
多いB付近の中心部を調査する。調査を開始してほどなく羽化したてと思われる成虫を1
匹発見する。♀で片方の後翅に少し縮みがある。手の平に乗せていたら3～4m飛び立っ
た。(写真3, 4)

3 調査結果

- ・ 今回の調査で幼虫2頭(3齢幼虫1, 終齢幼虫1)と成虫♀1頭が越冬していた。成虫は
羽化したてのものであった。

4 考察

- ・ 調査では、幼・成虫3頭のカバマダラを発見することができた。調査地は数百本のトウワ
タ群落があり、イネ科やシダ植物などの下草が繁茂しているので、発見されなかったカバマ
ダラが他にも生存している可能性は高いと思われる。直線距離100～200m以内の中なので、
オス・メス数頭のカバマダラが越冬し成虫になると、交尾・産卵し、次世代につながるもの
と思われる。

また、ここ数年宝島では多くのカバマダラが毎年多数発生し確認されているので、カバマ
ダラは定着しているのではなかろうか。

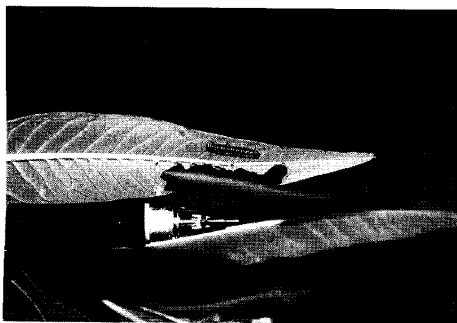


写真1 越冬していた3齢幼虫

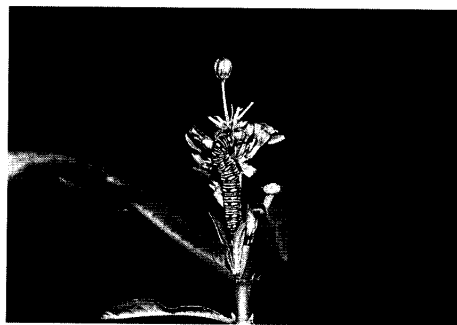


写真2 越冬していた終齢幼虫

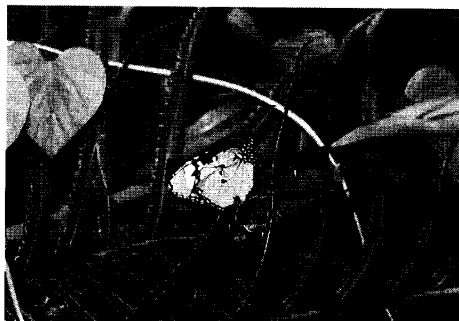


写真3 越冬していたカバマダラ成虫♀



写真4 この後2～3m飛び立った